第 29 回「緑の環境プラン大賞」の受賞団体決定

第一生命保険株式会社(社長:稲垣精二)が出捐した一般財団法人第一生命財団(理事長:森田 富治郎)は、この度、第29回「緑の環境プラン大賞」の受賞団体を決定しました。

全国から、シンボル・ガーデン部門 16点、ポケット・ガーデン部門 28点、特別企画「おもてなしの庭」 3点、計47点の応募があり、2018年9月26日の審査会において次の作品の受賞を決定しました。

◎国土交通大臣賞 [2点]

部門	作品名/場所	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	輪島の朝市横蝶〜 蝶々とあそぶ みん なの庭をつくろう (石川県輪島市)	チームおんぺこ	輪島朝市通りに通じる街中の空き地を、緑豊かで蝶が舞う交流の広場とするもの。蝶をはじめ能登の里山で見ることができる生き物を誘引し、子どもから高齢者までが集い、共に庭仕事を楽しむこのとのできる交流拠点を目指す。	NO.
ポケット・ガーデン	地域の団らん 「遊歩道」 〜フラワー・ピース フル・ロード〜 (宮城県仙台市)	仙 台 ナーサリー 株 式 会 社 ピースフル	保育所前にある水道管上部の未利用地を緑化し、子どもたちが植物や食に興味を持てる空間とするもの。地域の方が気軽に立ち寄れる「フラワー遊歩道」としても開放し、地域と子どもたちの関わりの場とすることを目指す。	

◎緑化大賞 [2点]

部門	作品名/場所	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	花の歩話人ロード 西公園 (宮城県仙台市)	西 公 園 を遊 ぼう プロジェクト	明治8年開園の歴史ある西公園において、針葉樹の大木により暗く寂しくなった園路沿いに、花畑とベンチ、テーブルを整備して明るい環境とし、人々が憩い、賑わう空間へと再生することを目指す。	
シンボル・ガーデン	緑とお花と癒しの広場・ 地域の「どぎゃんね ・ガーデン」 (熊本県熊本市)	社会福祉法人 沼山津福祉会 光輪保育園	未利用地を活かし、園児と自治会など地域の人々でつくり楽しむコミュニティー・ガーデンとして整備するもの。熊本地震による、被災から2年が経過し、地域コミュニティカが求められるなか、庭づくりを通じて地域の交流の輪を広げることを目指す。	

◎コミュニティ大賞 [9点]

部門	ューティス員 [9 点] 作品名/場所	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	こくちょう広場 ~季節を感じる 場所に~ (宮城県仙台市)	社会福祉法人 仙台愛隣会 穀町保育園	園庭を 3 つのエリアに分け、テーブルやベンチを配置し、シラカシ、クヌギ、ツバキの実を使ってままごと等でじっくり遊ぶ「どんぐり広場」、三輪車で緑のトンネルをくぐることもできる「わいわい広場」、畑や樹木・草花で四季を感じる「季節の広場」とするもの。	
ポケット・ガーデン	地域の魅力を 共有・発信する 青葉山 フットパーク (宮城県仙台市)	青葉山・八木山 フットパスの会	青葉山フットパークは、地元住民が身近に楽しめる緑地を目指すとともに、散策者の休憩所としての活用も想定している。対象地周辺の住民を中心として様々な人たちの参加のもとで整備を行う。	
ポケット・ガーデン	変革! 「保育園森プロジェ クト」地域の人と 繋がる窓へ (福島県郡山市)	社 会 福 祉 法 人 どろんこ会 郡 山 どろんこ 保 育 園	園を大きな家と捉え、①ビオトープでの水・命の経験 ②木(実・植物・木のぼりの木・枝)で「真に必要な体験」=五感を充分に使い直接的な自然体験の場で、制限のない空間と時間の中で遊びこめる場を造り、地域の方が集え自由に行き来できる場を目指す。	
ポケット・ガーデン	「自然を身近に! 心も身体も動き 出したくなる園庭」 整備 (静岡県浜松市)	社会福祉法人 住吉会 すみよし保育園	子ども達のより良い環境としての 園庭作りを考えている。自然の中 で太陽の光を浴び、木陰で語ら い、草の中に虫を見つけ、心を開 放し、全身を使って遊ぶことがで きる園庭を目指す。	
ポケット・ガーデン	花と緑の 四季彩まちづくり (奈良県生駒市)	ECOKA 委員会	郊外型大規模住宅開発地にあって、真の豊かさを実感できる花と緑の都市環境の形成を図るとともに、住環境の向上やコミュニティーの醸成に役立つことを願い、四季彩の街にふさわしい魅力ある花壇づくりを行う。	
ポケット・ガーデン	木の都 上町台地における「ともいきの里庭」整備プラン(大阪府大阪市)	特定非営利 活動法人 まち・すまいづくり	斜面緑地と一体となる緑地を形成する庭の整備と、台地の湧水を活用した涸池を再生し、都市部で水生生物や自然と触れ合える「ふれあいの庭」として、斜面緑地の機能(生物多様性保全など)を知ってもらう空間作りを行う。	Control of the Contro

部門	作品名/場所	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	水がせせらぎ 蛍の棲む 高層住宅の中の シンボル緑化 計画 (兵庫県西宮市)	社会福祉法人 パドマ園 パドマ・ナーサリース クール	高層住宅の中に、蛍の生息する 自然環境を整備し、今までになかった地域のシンボル緑地を形成。 自然に親しむ事で子供の心と身体を育み、人と自然が共生できる 場所づくりを行う。蛍をきっかけに 季節の魅力を持たせ、コミュニティの活性化に寄与する。	
ポケット・ガーデン	モリアオガエル の暮らす水 辺 の 植 物 ガーデン (広 島 県 広 島 市)	広島市立 緑井小学校	対象地の付近には天然記念物であるモリアオガエルが生息しており、その生態を児童が気軽に観察できる環境を整備する。水辺の植物と周辺の林をつなぐ中低木を配したポケット・ガーデンを企画し、水生生物も飼育することを考えている。	
ポケット・ガーデン	ふるさとの山 (八面山) 回帰プロジェクト (大分県中津市)	元 気 会	八面山は、中津市民にとって母なる山として慣れ親しまれている。草屋根のかわいい小屋2棟と花壇、四季の草花を市民参加でつくり魅力ある公園にすることで、多くの方の関心を引き、八面山を訪れて楽しんで頂けることを期待する。	

◎「おもてなしの庭」大賞 [1 点]

部門	作品名/場所	受賞者名	概要	
おもてなしの庭」特別企画	江戸ルネサンス 伝統と文化が薫るお もてなし (東京都台東区)	台東区	2020 年東京オリンピック・パラリンピックのマラソンコース上にあり、訪都外国人観光客の約半数が訪れる浅草寺の門前に位置する並木通り中央分離帯において、竹と朝顔をモチーフとする、江戸の伝統と文化の薫りを表現した「おもてなしの庭」を創出する。	

第 29 回 緑の環境プラン大賞 の概要

■目的

全国から緑化プランを公募し、優れたプランを表彰するとともにその実現のために緑化工事助成を行うことで、緑豊かな環境の形成を図るとともに、生活の質の向上やコミュニティの醸成等を図るものです。また、東京都内を対象として「おもてなしの庭」プランを公募し、優れたプランを表彰・助成することで、花と緑で観光客を迎えるおもてなし空間の創出を図ります。

■募集の対象

_	シンボル・ガーデン 部門	全国を対象	地域のシンボル的な緑地として、緑の持つヒートアイランド緩和効果、生物多様性保全効果等を取り入れることにより、人と自然が共生する都市環境の形成、および地域コミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ緑地のプランを募集します。
	ポケット・ガーデン 部門		日常的な花や緑の活動を通して、地域コミュニティの活性化や、保育園・幼稚園、学校等での情操教育、身近な環境の改善等に寄与するアイデアを盛り込んだ花や緑のプランを募集します。
	特別企画 「おもてなしの庭」		2020年に向けた特別企画として、花と緑で観光客をお迎えする魅力ある緑の創出、およびその場所でのおもてなしの活動に関するアイデアを盛り込んだプランを東京都内限定で募集します。

■表彰

●シンボル・ガーデン部門

国土交通大臣賞	1点以内 副賞800万円以内(工事に対する助成金)	
緑化大賞	2点以程 副賞800万円以内(工事に対する助成金)	

●ポケット・ガーデン部門

国土交通大臣賞	1点以内	副賞100万円以内 (工事に対する助成金)
コミュニティ大賞	9点程度	副賞100万円以内 (工事に対する助成金)

● 「おもてなしの庭 」プラン

おもてなしの庭大賞	1 点	副賞2,020万円以内(工事及び活動に対する助成金)	
いしてらしいたバス	' ///		

■審査委員

福井県立大学 学長 / 東京農業大学 名誉教授 委員長 進士 五十八 委員 青 木 由行 国土交通省 都市局長 金 子 忠一 東京農業大学 教授 妙 子 永 山 マネジメントコンサルタント 藤沢 シンクタンク・ソフィアバンク 代表 久 美 株式会社産業経済新聞社 取締役 営業·事業担当 松本 肇 村上 暁 信 筑波大学 システム情報系 教授 精二 第一生命保険株式会社 代表取締役社長 稲垣 小 野 文 夫 一般財団法人第一生命財団 常務理事 宮 下 和正 公益財団法人都市緑化機構 専務理事

■スケジュール

募集期間 2018年4月1日~6月30日 入選発表 2018年10月12日 審査会 2018年9月26日 表彰式 2018年11月19日於:明治記念館

■主催等

主 催:公益財団法人都市緑化機構,一般財団法人第一生命財団

後 援:国土交通省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、東京都(おもてなしの庭)

特別協賛:第一生命保険株式会社

協 賛:一般社団法人建設広報協会,一般社団法人日本公園緑地協会,

一般社団法人日本造園建設業協会,都市緑化基金等連絡協議会

協力:株式会社フジテレビジョン、株式会社産業経済新聞社、株式会社ニッポン放送